

消火栓を使用した  
初期消火マニュアル



富里市

# 目 次

1	はじめに	
	(1) 目的	1
	(2) 消火栓を使用できる条件	1
2	消火栓について	
	(1) 概要	2
	(2) 消火栓の構造	2
3	消火栓を使用するための消火資機材	
	(1) 必要資機材（スタンドパイプなど）	3
	(2) 消火資機材の名称	3
4	各種器具の取扱要領	
	(1) 消火栓蓋の開閉要領	4
	(2) スピンドルドライバーの取付要領	4
	(3) スタンドパイプの取付・取外要領	5
	(4) 媒介金具の取扱要領	5、6
	(5) ホースの取扱要領	6
	(6) 管そう（筒先）の取扱要領	7
5	消火活動要領	8～10
6	安全に消火活動を行うために	11
7	留意事項について	12、13
8	事前準備から撤収の流れ	14
9	事務フロー	
	(1) 資機材購入	15
	(2) 訓練実施	15
10	様式集（記載例付き）	
	(1) 資機材購入	16～18
	(2) 訓練実施	16～23

# 1 はじめに

## (1) 目的

平成30年3月の富里市防災アセスメント調査によると、富里市直下地震における市内の火災・延焼被害想定は7棟となっており、消防車両の出動率が上がることで、消防による消火力が低下することが見込まれます。

そういった状況を鑑み、大規模な地震発生時に区、自治会、自主防災組織が消火栓を活用した初期消火活動を行うことにより、火災による被害の拡大を軽減することを目的に、本マニュアルを作成しました。

## (2) 消火栓を使用できる条件

専用資機材の購入及び年1回以上の訓練実施が必要となります。

消火栓を活用した初期消火活動は、大規模な地震発生時の火災に限られ、使用者や市民等の安全が確保されかつ、消防車の到着が見込めない場合に訓練を受けた者(18歳以上の者で5名以上)が活用することができます。また、訓練を行う場合は、必ず消防署職員の立会いが必要となります。

※初期消火の方法は消火栓だけでなく消火器、濡れタオルや濡れシート等様々な方法があります。消火栓に固執することなく状況に応じた対応をしましょう。また、日ごろから各家庭で防火に心がけ、もし、火災が発生した時の備えとして消火器や住宅用火災警報器等の備えをしましょう。

## 2 消火栓について

### (1) 概 要

消火栓とは、消火活動に必要な水を供給するための水道設備です。また、蓋には「消火栓」と表示があり、目立つように黄色で塗色されています。（一部、黄色で塗色されていないものや蓋周囲の道路面に黄色の焼付けがされているもの、構造が異なる場合もあります。）さらに、場所によっては、消火栓付近に消火栓標識が立てられています。

### (2) 消火栓の構造

消火栓は、水を出したり、止めたりするための開閉バルブと、吐水口で構成されています。水道管に直接取付けてあり、吐水口の口径は65mmに統一されています。

### 【消火栓及び吐水口の例】

【消火栓】

【吐水口】



※消火栓の蓋や吐水口は、一部写真とは異なる形状のものがあります。

### 3 消火栓を使用するための消火資機材

#### (1) 必要資機材（スタンドパイプなど）

スタンドパイプは、消火栓の吐水口に差し込み、ホースと管そうを結合することで、ポンプを介さず毎分100リットル以上の放水ができる消火資機材です。

放水を行うには、スタンドパイプ本体のほか、媒介金具、スピンドルドライバー、ホース、消火栓蓋開閉器具、管そう（筒先）が必要となります。また、資機材の適切な管理のため、資機材を準備した後に資機材の管理者等届出書を提出する必要があります。

#### (2) 消火資機材の名称



- ①スタンドパイプ・・・ 地下式消火栓へホースを接続するための補助器具
- ②媒介金具・・・ スタンドパイプ（口径65mm）とホース（口径40mm）を接続するための器具
- ③スピンドルドライバー・・・ 消火栓のバルブを開閉するための器具
- ④40mmホース・・・ 口径40mm、長さ1本20m、ホースを結合し延長が可能
- ⑤消火栓蓋開閉器具・・・ 消火栓の蓋を開閉するための器具
- ⑥管そう（筒先）・・・ ホースの先端に接続し放水開始、停止を先端で操作するための器具

#### ※注意事項

必要な資機材については、各団体にて準備をお願いします。



## 4 各種器具の取扱要領

消火栓は、車道又は歩道上のマンホール内に設置してあり、使用する場合には、スタンドパイプなどの専用の消火資機材を正しい手順で取扱うことが必要となります。

なお、活動時には安全を確保するため、訓練を受けた者（18歳以上の者で5名以上）で実施してください。

### （1）消火栓蓋の開閉要領

- ①開閉作業実施前に周囲の交通状況及び安全を確認します。
  - ②消火栓蓋のテコ穴に消火栓蓋開閉器具を差し込み、テコの原理で蓋を持ち上げ、手前に上げます。
  - ③上げた後、手前に引きながら蓋をおおむね180度回転させ開放します。
  - ④蓋を開けた後は、転落等の事故が起きないように監視します。
- ※一部写真と蓋の形状が異なり、蓋の開閉要領が変わる場合がありますのでご注意ください。

【テコによるこじ開け】



【蓋の引上げ】



【蓋を180度回転】



### （2）スピンドルドライバーの取付要領

- ①消火栓の蓋が開放されたら、スピンドルドライバーを開閉バルブに取付けます。
- ②スピンドルドライバーを反時計回り（左回り）にゆっくりと回転させ、水が出ることを確認します。濁った水が出る場合には、濁った水が無くなるまで水を放出し、一旦止めます。

※この時、一気に回転させると水が勢いよく放出されてしまうため、細心の注意を払い、少しずつゆっくり回転させてください。

【スピンドルドライバー取付け】



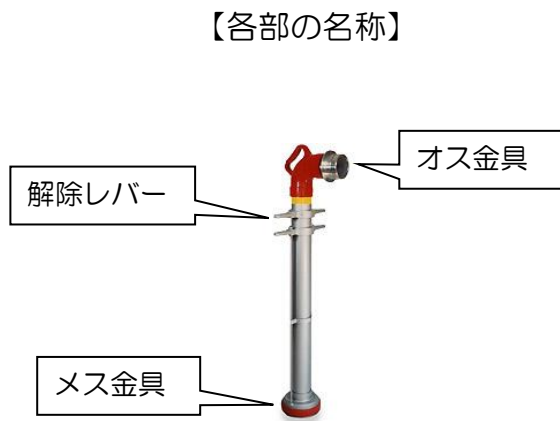
【濁水の放出】



### (3) スタンドパイプの取付・取外要領

#### ①取付け

消火栓の吐水口にスタンドパイプのメス金具部分を「カチャ音」がするまで垂直に差し込みます。差し込んだ後に一度引上げ、確実に取付けられていることを確認します。



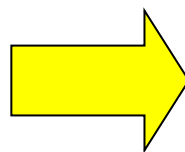
#### 【スタンドパイプ取付け】



#### ②取外し

スタンドパイプの解除レバーの両側を両手で握り、下部レバーを握ることで、スタンドパイプのメス金具が解除されますので、そのまま上に引上げます。

なお、取外す際は、消火栓バルブが完全に閉まっていることを確認してください。



### (4) 媒介金具の取扱要領

①媒介金具を取付けるには、スタンドパイプのオス金具部分に媒介金具のメス金具を「カチャ音」がするまで押し、確実に取付けられていることを引上げて確認します。

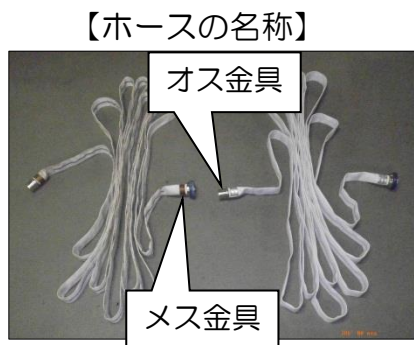
②媒介金具の取外しは、スタンドパイプのオス金具の離脱環を媒介金具方向に両手指先で「カチャ音」がするまで押し込むと、そのまま取外すことができます。



## (5) ホースの取扱要領

### ①ホースの結合方法

ホースには、その両端に媒介金具と同様のオス金具とメス金具が付いており、ホースを結合するには、1本目ホースのオス金具を2本目ホースのメス金具に「カチャ音」がするまで押し込み、確実に結合できていることを引っ張って確認します。



### ②ホースの離脱方法

結合したホースを離脱するには、オス金具に付いている離脱環をメス金具側に「カチャ音」がするまで押し込み、そのままオス金具を引き抜きます。





## (6) 管そう（筒先）の取扱要領

管そうは、根元部分にホースのオス金具と結合するためのメス金具、先端部分には水を放出するノズルで構成されています。

ノズルは、左右に回すだけで、放水停止、棒状放水、噴霧放水の3段階の操作ができます。

なお、ホースとの結合及び離脱方法は、媒介金具やホース同士の結合と同様の操作です。ホースと結合した際には管そうを一度引っ張り、確実に結合されているかを確認します。

【各部の名称】



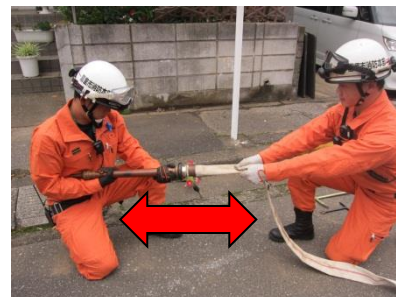
【ホースとの結合】



【1人での結合確認】



【2人での結合確認】



【狭い角度(棒状)での放水】



【広い角度(噴霧)での放水】



## 5 消火活動要領

項目	活動内容	イメージ
資機材の搬送	<p>火災発生現場に近い消火栓まで資機材を搬送します。</p> <p>※活動時はケガ防止のため、服装に注意してください。（長そで、長ズボン、ヘルメット、安全靴、手袋）</p>	
消火栓蓋の開放	<p>① 1名が消火栓蓋開閉器具を使用して消火栓蓋を開放します。（場合によっては2名で協力して行う）</p> <p>② 他の人は周囲の安全を確認し、資機材の準備をします。</p>	
スピンドルドライバー、スタンドパイプの取付け	<p>① 1名がスピンドルドライバーを取付け、開閉バルブを若干開放し、水が出ることを確認します。</p> <p>② 濁った水が無くなるまで水を放出し、一旦止めます。</p> <p>③ スタンドパイプを垂直に取付けます。（確実に取付けられているか確認する。確実に取付けられていないと大ケガにつながります）</p>	 

項目	活動内容	イメージ
ホース結合・延長	<p>スタンドパイプに媒介金具を取付けてホースを結合し、協力してホースを延長します。</p> <p>※延長する際は、通行人及び車両等に注意し安全を確認しながら行ってください。</p> <p>※スピンドルドライバー操作員1名は消火栓に残ります。スピンドルドライバーは取付けたままの状態にしておき、いつでも開閉できるようにします。</p>	 
放水開始	<p>① 火災現場近くまでホースを延長したら、管そうとホースを結合します。</p> <p>② 上記①の準備が終了したら、3名のうち1名が伝達員として消火栓まで戻り、スピンドルドライバー操作員に放水開始を伝えます。</p> <p>※伝達員はホースが折れていないか、よじれがないか、途中で結合部が外れていないかを確認しながら伝達に行きます。</p> <p>③ スピンドルドライバー操作員は、反時計回り（左回り）に回転させ消火栓バルブを開放します。開放時は半回転から1回転にします。</p> <p>④ 管そうを持った2名は、いつ水が来ても良いように、火元に向けて構えます。</p> <p>※大ケガにつながりますので、活動中は絶対に管そうを離さないでください。また、放水中は2名以上で管そう及びホースを保持してください。</p>	  

項目	活動内容	イメージ
放水停止	<p>① ノズルの閉鎖操作後、1名が伝達員として消火栓まで戻り、放水停止を伝えます。</p> <p>② スピンドルドライバー操作員は、時計回り（右回り）に回転させ消火栓バルブを閉鎖します。</p>	
活動終了	<p>① 活動終了後は、消火栓バルブが完全に閉まっていることと、ホース内に圧力がかかっていないことを確認した後、スタンドパイプを取外します。</p> <p>② 上記①の終了後、消火栓の蓋を閉めて活動終了になります。 ※消火栓の蓋は、地面からはみ出さないように閉めてください。</p> <p>③ ホース内に残った水を排水し、各資機材を離脱して撤収します。 ※ホースは傷みやすいので、排水後はきちんと乾燥させてください。</p>	

### 役割分担

- ① スピンドルドライバー操作（1名）
- ② 放水の開始及び停止にかかる伝達（1名）
- ③ 管そう及びホース保持（2名）
- ④ 周囲の安全確認（1名）

操作を行うには、最低5名必要になります！



## 6 安全に消火活動を行うために

消火活動には常に危険が伴います。「安全管理の基本は自己にある」を心得、最も大切なことは、自分たちがケガをしないことです。自分たちの身を守るためにも、必ず以下の注意事項を守りましょう。

### (1) 服装

熱や炎、落下物などから自分の身を守るために、手袋、安全靴、ヘルメット、長そで、長ズボンを着用しましょう。防炎加工の衣服等があればより効果的です。

なお、十分に服装が整っていない協力者は、出火場所から離れた場所で支援活動を行うように指示しましょう。

### (2) 水利部署

消火を始める前には、どこの消火栓から水を出すか判断しなければなりません。消火活動は、その時の天候や風向きも考慮し、これ以上燃え広がらないように阻止することや、いざという時の逃げ道を確保することも検討します。激しく燃えている建物に近づきすぎると、やけどをする可能性があるため、より安全に水が出せる消火栓を決定し、活動の拠点としてください。

### (3) 消火活動時

- ① 身の危険を感じたり、判断に迷うようなことがあれば、消火活動を中断し、避難しましょう。自分の身の安全を第一にしてください。
- ② 周囲の安全確認者は、絶えず全体、火災の状況に気を配り、火に囲まれることのないよう、避難の方向を確保して活動しましょう。危険と判断した時は、躊躇なく活動を中止し避難してください。
- ③ 燃えているものに直接放水することが最も効果的ですが、燃えている建物内部は煙が充満していたり、落下物のおそれがあることから、路上や屋外から建物内に向けて放水します。また、燃え広がるおそれのある所に放水することで、それ以上燃え広がらないようにすることも考慮しましょう。
- ④ 建物の玄関や窓などの開口部正面に位置するのは避けましょう。開口部から、急に火炎が噴き出してくることがあるので危険です。また、炎にあおられないよう、燃えている建物に近づきすぎないようにしましょう。
- ⑤ 風が強く吹いているときは、風上から消火を行ってください。風下には火が回ります。危険ですので、風下からの消火は絶対に行わないでください。
- ⑥ 付近にいる人に応援を求め、協力しましょう。人数が多くなれば活動がしやすくなります。
- ⑦ 充水されたホースの踏みつけ等による転倒に十分注意しましょう。
- ⑧ 震災時には、水道管のずれや歪みにより水が出ないことが考えられます。バルブを回して水が出ない場合や異常を感じた場合はバルブを閉鎖し、蓋をして、避難してください。

## 7 留意事項について

- (1) 訓練を実施する場合、消火栓使用協議書、訓練位置図【任意様式】、訓練参加者名簿（18歳以上の者で5名以上）【任意書式】を添えて、実施の30日前までを目途に消防署又は北分署へ届け出ましょう。届出がない場合、訓練は行えません。また、ケガや事故に関する補償が受けられません。
- (2) 消火栓を活用した訓練をする場合には、消防職員の立会いが必要です。消防職員の指導のもと、安全に心掛け訓練を行ってください。
- (3) 訓練又は消火活動を行う人数は、操作員と安全巡視員を含め最低5名（18歳以上の者）が必要です。
- (4) 参加者の年齢、服装、健康状態等を把握しましょう。体調不良等の場合は、無理に訓練に参加させないようにしましょう。飲酒時の訓練は、絶対に行わないでください。
- (5) 訓練は、消火栓の蓋を開けスタンドパイプ接続などの放水までの一連の動きを行います。
- (6) 訓練中に危険を感じた場合は、速やかに中止してください。
- (7) 雨天、荒天等の場合は、ためらわず延期や中止にすることも必要です。
- (8) 消火栓を使用する訓練では、原則、富里市が管理する道路とし、交通量が多く危険な国道や県道等は使用しないでください。
- (9) 道路上には、ホース及びホースの付属器具以外のものを設置しないようにしてください。ただし、警察署から交通安全のため指示があったカラーコーン等は除きます。  
また、訓練に伴って交通規制看板（規制の事前周知看板も含みます）を道路上に設置する場合は、別途道路占用許可申請が必要となります。  
道路管理者が不明な場合や、道路上に交通規制看板を設置する場合は、消防署又は市役所建設課に相談してください。
- (10) 区・自治会・自主防災組織等が、消火栓を使用できるのは、大規模な地震発生時の火災に限られ、使用者や市民等の安全が確保され、消防車の到着が見込めない場合、かつ、訓練を受けた者（18歳以上の者で5名以上）が使用することが可能となります。

消火活動中に消防隊が到着したら、必ず消防隊の指示に従って行動してください。また、飲料水や洗浄等での勝手な使用は、絶対に行わないでください。法律で禁じられており罰則があります。

(1 1) 初期消火の方法は、消火栓だけでなく消火器、濡れタオルや濡れシート等様々な方法があります。消火栓に固執することなく状況に応じた対応をしましょう。

また、日ごろから各家庭で防火に心がけ、もし、火災が発生した時の備えとして消火器や住宅用火災警報器等の備えをしましょう。

(1 2) 消火栓は、非常時に使用するものです。市の上水道は、市民の皆さんに安全な水を安定的に給水するための施設です。皆様のご家庭への水道管と接続しているため誤った方法で初期消火を行うと、使用者に危険が及ぶだけでなく、広範囲に渡って水道水が濁る（赤水【さび水】の発生）可能性があります。安全で正しい方法でご使用ください。万が一赤水が発生し損害が生じた場合、賠償を求められる可能性があります。

## 8 事前準備から撤収の流れ

### 事前計画

#### 【いつ、どこで実施するのか。】

地域住民の参加しやすい日時で、なるべく住民の居住区近辺で訓練を実施しましょう。  
また、参加希望者を募り、参加人数を見込みます。

#### 【資機材は何が必要か。】

スタンドパイプ等の消火資機材が整っているか確認しましょう。

#### 【関係する団体との調整をする。】

消防職員の出向依頼など、計画概要について消防署に相談しましょう。  
必要に応じて警察等に連絡し、近隣住民の承諾を得ておくことも必要です。

### 計画を知らせる

訓練概要を地域住民に知らせます。

方法は地域によって様々です。回覧を利用する、定期集会時に知らせる等の方法があります。

### 事前準備

消火資機材やその他必要な物を準備しましょう。資機材は、点検を行います。

参加者は、ケガ防止のため、服装に注意してください。（長そで、長ズボン、ヘルメット、安全靴、手袋）訓練を始める前には、必ず準備運動等を実施するようにしてください。

道路を使用する場合は、要所に交通整理員を配置するようにしましょう。

### 訓練開始

訓練開始前に、参加者に訓練の主旨、内容、事故防止について十分に説明しましょう。

訓練中は、参加者の安全を第一に活動しましょう。

訓練会場付近を車や歩行者が通る場合があるため、十分注意しましょう。

### 訓練終了

会場及びその周辺の後片づけを十分に行いましょう。

資機材等を整理し、借用品は確実に返却しましょう。

訓練の反省会を開くことも重要です。



## 9 事務フロー

提出様式については、「10 様式集（記載例付き）」を参照してください。

### (1) 資機材購入

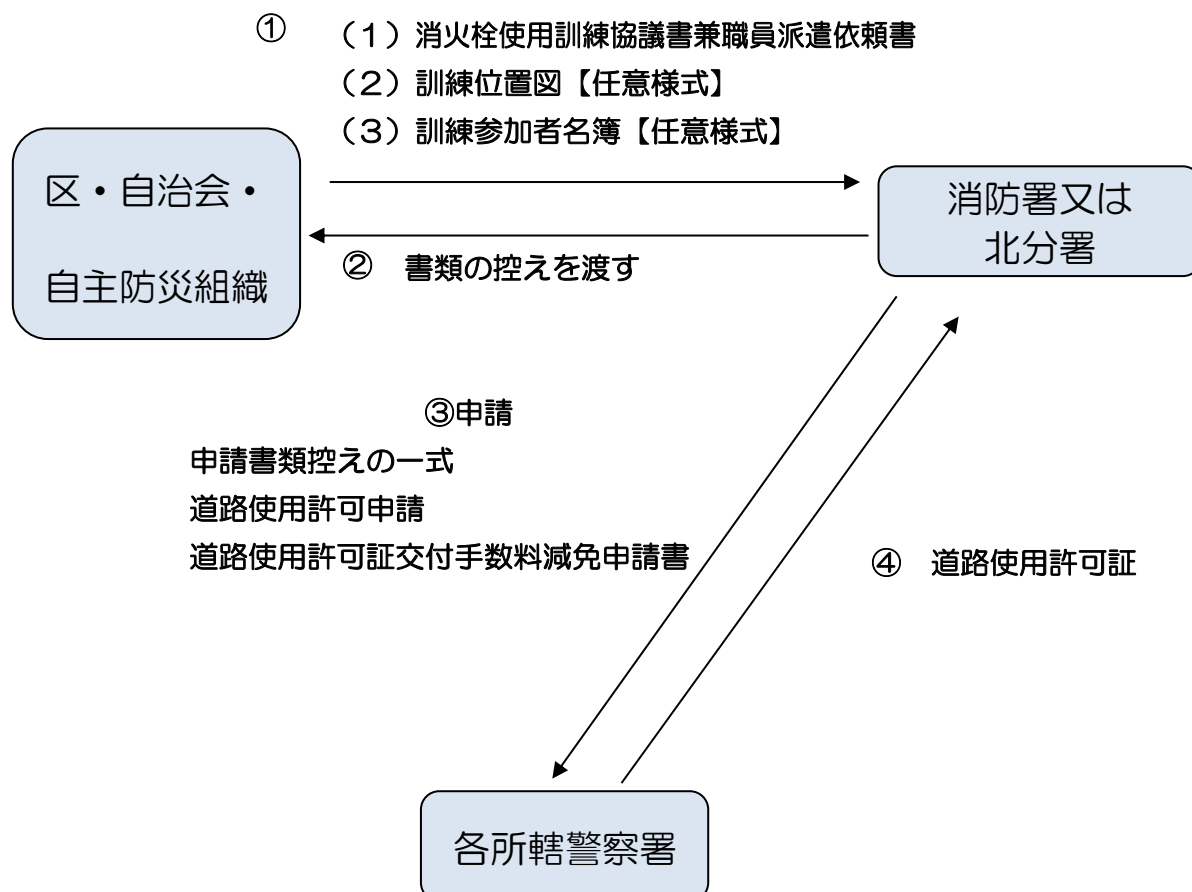
資機材を購入したら、消防署又は北分署へ資機材の管理者や保管場所等を記入した「資機材の管理者等届出書」を提出してください。

また、提出後に内容に変更があった場合についても、その都度、消防署又は北分署へ提出してください。



### (2) 訓練実施

申請を行う、30日前までを目途に、消防署又は北分署に消火栓の場所の確認及び訓練の日程調整を行ってください。



## 10 様式集（記載例付き）

### （1）資機材購入

資機材の管理者等届出書 . . . . . 17

資機材の管理者等届出書（記載例） . . . . . 18

### （2）訓練実施

消火栓使用協議書兼職員派遣依頼書 . . . . . 19

消火栓使用協議書兼職員派遣依頼書（記載例） . . . . . 20

訓練位置図（記載例） . . . . . 21

道路使用許可申請書 . . . . . 22

道路使用許可証交付手数料減免申請書 . . . . . 23

資機材の管理者等届出書

富里市長 様

組 織 名 \_\_\_\_\_

代 表 者 職 氏 名 \_\_\_\_\_

代 表 者 住 所 \_\_\_\_\_

連絡先電話番号(日中) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

連絡先電子メールアドレス \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

必要資機材の管理者及び保管場所につき、下記のとおり定めましたので届出します。

記

- 1 組 織 名 : \_\_\_\_\_
- 2 管 理 者 名 : \_\_\_\_\_
- 3 資機材の保管場所 : \_\_\_\_\_
- 4 組 織 等 名 称 : \_\_\_\_\_
- 5 活 動 地 区 : \_\_\_\_\_
- 6 消火栓使用に必要な資機材等の保有状況

No.	品 名	数 量
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

注) 保管場所及び管理者に変更が生じたときは、再度この様式を提出してください。

# 記載例

令和元年 7月 1日

## 資機材の管理者等届出書

富里市長 様

組 織 名 ○○○○ 防災会

代 表 者 職 氏 名 富 里 太 郎

代 表 者 住 所 富里市七栄○○

※メールアドレスは、  
ある場合のみで結構です

連絡先電話番号(日中) ○○○○-○○-○○○○

連絡先電子メールアドレス ○○○○○○○○@○○○○

必要資機材の管理者及び保管場所につき、下記のとおり定めましたので届出します。

### 記

- 1 組 織 名 : ○○○○ 防災会
- 2 管 理 者 名 : 富 里 太 郎
- 3 資機材の保管場所 : ○○防災会防災倉庫(□□公園内)
- 4 組 織 等 名 称 : ○○○○ 自治会
- 5 活 動 地 区 : ○○町1丁目～3丁目
- 6 消火栓、消火栓使用に必要な資機材等の保有状況

No.	品 名	数 量
1	スタンドパイプ	1本
2	媒介金具	1つ
3	スピンドルドライバー	1本
4	40mmホース	2本
5	消火栓蓋開閉器具	1本
6	管そう	1本
7	台車	1台
8		
9		
10		

注) 保管場所及び管理者に変更が生じたときは、再度この様式を提出してください。



年 月 日

消火栓使用訓練協議書兼職員派遣依頼書

富里市消防署長 様

組 織 名

代 表 者 職 氏 名

代 表 者 住 所

連絡先電話番号(日中)

連絡先電子メールアドレス

消火栓を活用した初期消火訓練を行うため、下記のとおり協議します。

記

訓練演習内容

項 目	内 容
訓練実施日時	年 月 日 時から 時まで
訓練場所	
訓練内容	
使用対象	
責任者	

# 記載例

令和元年 7月 1日

## 消火栓使用訓練協議書兼職員派遣依頼書

富里市消防署長 様

自主防災組織名 ○○○○ 防災会

代表者職氏名 富里太郎

代表者住所 富里市七栄○○

※メールアドレスは、  
ある場合のみで結構です

連絡先電話番号(日中) ○○○○-○○-○○○○

連絡先電子メールアドレス ○○○○○○○○@○○○○

消火栓を活用した初期消火訓練を行うため、下記のとおり協議します。

### 記

#### 訓練演習内容

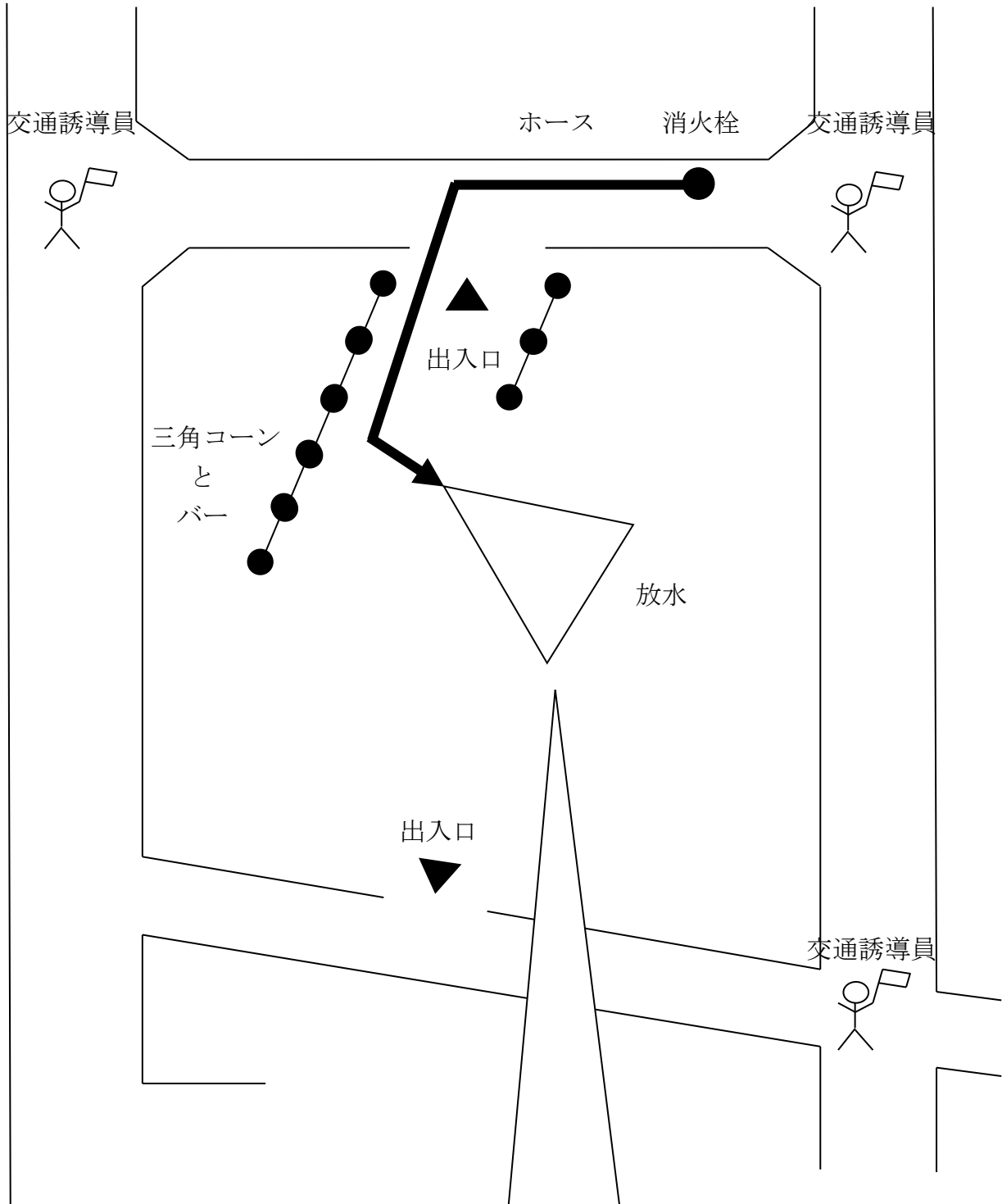
項目	内容
訓練実施日時	令和元年 7月 1日 9時から 13時まで
訓練場所	富里市七栄○○付近路上
訓練内容	下記消火栓を使用した、初期消火訓練 (資機材の使用方法、接続方法の確認等)
使用対象	富里市七栄○○付近路上 (消火栓)
責任者	富里太郎

消防署又は北分署と相談して決めてください。  
※場合によっては使用できないことがあります。

# 記載例

## 訓練位置図

富里市七栄〇〇—〇



消火栓、消火栓の位置、ホース敷設位置、放水位置がわかるよう記載してください。

<h2 style="margin: 0;">道路使用許可申請書</h2> <p style="text-align: right; margin: 5px 0;">年 月 日</p> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">警察署長 殿</p> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">住 所 富里市</p> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">申請者</p> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">氏 名</p> <p style="text-align: right; margin: 10px 0;">④</p>					
道路使用の目的	消火栓を使用した消火活動に必要な防災訓練実施のため				
場所又は区間					
期 間	年 月 日 ( ) 午 時 分 から 午 時 分 までの間				
方法又は形態					
添付書類					
現 場 責任者	住 所	富里市			
	氏 名		電話 (携帯)		
<p style="font-size: 24px; margin: 0;">第 号</p> <h2 style="margin: 10px 0;">道路使用許可証</h2> <p style="margin: 10px 0;">上記のとおり許可する。ただし、次の条件に従うこと。</p> <table border="1" style="width: 100%; height: 40px; margin: 10px 0;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">条 件</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin: 10px 0;">年 月 日</p> <p style="text-align: right; margin: 10px 0;">警 察 署 長 ④</p>				条 件	
条 件					

- 備考 1 申請者が法人であるときは、申請者の欄には、その名称、主たる事務所の所在地及び代表者の氏名を記載すること。
- 2 申請者は、氏名を記載し及び押印することに代えて、署名することができる。
- 3 方法又は形態の欄には、工事又は作業の方法、使用面積、行事等の参加人員、通行の形態又は方法等使用について必要な事項を記載すること。
- 4 添付書類の欄には、道路使用の場所、方法等を明らかにした図面その他必要な書類を添付した場合に、その書類名を記載すること。
- 5 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とする。



第一号様式（第五条）

道路使用許可証交付手数料減免申請書

年 月 日

警察署長 様

住 所 富里市  
申請者  
氏 名

使用料及び手数料条例第5条第3項の規定により、次のとおり道路使用許可申請手数料を免除されますよう申請いたします。

- 1 手数料の額 円
- 2 免除申請額 円
- 3 理 由 災害時における消火栓を使用した消火活動に必要な防災訓練実施のため。

消火栓を使用した  
初期消火マニュアル

令和2年4月

令和3年6月一部修正

令和4年9月一部修正

編集・発行 富里市消防署